

## 本時のねらい

学校内や家庭から出るごみの量を減らすために、自分たちにどのような取り組みができるのかを一人ひとりが考え、学級で交流することを通して、ごみの分別やごみを減らす取り組みに対する関心を深める。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

1人1台の端末を用いて児童それぞれに考えを書き出させることで、ごみの問題を自分に関わる事象としてとらえさせ、自分の考えを周囲へ発信させる。

Jamboardを使った交流で、学級全体の意見を見ることを通して、自分では思いつかなかった取り組み案を知り、自らの考えを深めさせる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末（iPad）
- ・AppleTV
- ・電子黒板
- ・Google Classroom
- ・デジタルホワイトボード（Google Jamboard）
- ・Google ドキュメント

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「めあて：ごみを減らす方法を考えよう。」を確認する。</li> <li>○iPadのClassroomに入っている3枚のごみの写真を見て、学習活動の見通しをもつ。</li> <li>・1枚目 ごみ置き場の写真、2枚目 粗大ごみの写真</li> <li>3枚目 大阪湾の最終処分場の写真。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題となる点を様々な視点から見つけ出せるよう、複数枚のごみに関わる写真を資料として提示する。</li> </ul>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごみを減らす方法を考える。</li> <li>○Jamboardの付箋に自分の考えを書きだす。</li> <li>・きれいな状態であるべく使い続ける。なるべくリサイクルする。残さず食べる。まだ使えるものは人にあげる。できるだけ缶を使う。</li> <li>○全員の付箋を見ながら、詳しく知りたい考えについて質問をする。</li> <li>・なぜできるだけ缶を使うのか。 →缶はリサイクルできるから。</li> <li>・どうやって人にあげるのか。 →フリーマーケットやバザーで売る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Jamboard上のページと使用する付箋の色を個人で指定することで、自分の付箋を明確にさせ、書き出すことの意欲を高める。 「1班は○ページ目、班4人で色を分ける。」</li> <li>・全員の付箋を見ることで、口頭での交流よりもたくさんの意見を取り入れることができるようにする。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の意見を聞いて、ごみを減らすために自分ができることを考える。</li> <li>・使い続ける。・ごみを肥料にする。・捨てずに売る。</li> <li>・ごみを出さないように努力する。</li> <li>○Classroomにワークシートを提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がドキュメントで作成したワークシートに今後の取り組みについて記入させる。</li> <li>・本時の学習のねらいが達成できたかどうか、教員が把握・評価するためにClassroomにてワークシートを課題提出させる。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：電子黒板とタブレットを用いて、ごみに関わる資料を見ている場面



写真2：Jamboardを使い、それぞれが貼り出したゴミを減らす方法を見て、友達の意見を知る場面



写真3：Classroomに添付した振り返りシートに、自分がこれから実践していきたいごみを減らす方法を書きだす場面

## 児童生徒の反応や変容

・今までは、発表する児童の考えのみが学級で共有されていたが、Jamboardを用いることにより、全員の考えを共有することができるため、児童がさまざまな考えを見ることによって自身の考えを深めることにつながっていた。また、普段発表ができない児童でも、自分自身の考えを発信できるようになった。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・アプリで共同作業を行う場合、1つのスライドにすべての児童が付箋を貼り付け、操作することは難しいため、スライドを班の数分用意しておく必要があるなど、事前に機能に応じた準備が必要である。また児童が操作に慣れ、見通しをもつようにすることが重要だと感じた。